

医学教育年表

—平成 11 (1998) 年 4 月～平成 14 (2002) 年 4 月—

平成 10 (1998) 年

- 4.22 第 92 回医師国家試験の合格発表。受験者数 8,716 名中 7,806 名が合格 (合格率 89.6%)
- 5.15 厚生省の「医師の需給に関する検討会」は報告書を公表。医師数の適正化の対策として、大学定員の削減、合格基準の変更などを含めた医師国家試験の見直し、厳正な卒業認定や適切な進路変更指導などを提言
- 6.2 厚生省が「医療技術評価推進検討会」を設置
- 6.30 文部省大学審議会が「21 世紀の大学像と今後の改革方策について (中間まとめ)」を公表
- 8.27 文部省が「学士を対象とする医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議」を設置
- 10.26 文部省大学審議会が「21 世紀の大学像と今後の改革方策について一競争的環境の中で個性が輝く大学一」を公表。課題探求能力の育成、教育研究システムの柔構造化、責任ある意思決定と実行、多面的な評価システムの確立の 4 つの基本理念を提示 (資料 1: 答申要旨)

平成 11 (1999) 年

- 2.10 厚生省医療関係者審議会医師臨床研修部会が「医師臨床研修の必修化について (とりまとめ)」を公表。卒後 2 年間の臨床研修必修化、臨床研修病院の指定基準の見直し、「病院群」や「研修施設群」による研修の場の多様化、研修医への経済的措置、研修修了の認定方法などを提言 (資料 2)
- 2.26 文部省が「21 世紀医学・医療懇談会第 4 次報告: 21 世紀に向けた医師・歯科医師の育成体制の在り方について」を公表。入学者選抜方法の一層の改善、教養教育、コミュニケーション教育、生命の尊厳や死に関する教育などの充実、少人数教育やテュートリアル教育の導入などによる問題発見・解決能力の育成、クリニカル・クラークシップや臨床教授制度の導入などによる臨床実習の充実、精選された基本的内容を重点的に履修させるコア・カリキュラムの確立および選択履修科目の拡充・多様化、臨床実習に臨む学生に対す

る共通評価システムの構築、大学院における教育研究の改善、教育研究の国際交流、教育研究を支える体制の整備などを提言 (資料 3: 概要)

- 3.9 文部省大学審議会が「大学設置基準等の改正について (答申)」を公表。単位互換などの規定を改変
- 3.23 厚生省の「医療技術評価推進検討会」が報告書を公表。根拠に基づく医療 (EBM) の推進、治療ガイドラインの作成・普及などを提言
- 4.15 厚生省医療関係者審議会医師部会の「医師国家試験改善検討委員会」が報告書を提出。平成 13 年の第 95 回医師国家試験から、出題数の増加と内容の改善、合否基準の改訂、試験問題のプール制と問題の回収などの改善策を実施。実技試験導入の方向も示された (資料 4: 概要)
- 4.22 第 93 回医師国家試験の合格発表。受験者数 8,692 名中 7,309 名が合格 (合格率 84.1%)
- 8.9 文部省大学審議会大学院部会が「大学院入学者選抜の改善について (答申)」を公表。医学、歯学などの大学院入学資格の弾力化 (学部から大学院への早期進学特例の導入) を提言
- 9.6 文部省大学審議会が「大学設置基準等の改正について (答申)」を公表。各大学の自己点検・評価が義務化、教員の組織的な研修などが努力義務化へ (資料 5: 答申抜粋)
- 9.20 文部省は国立大学を独立行政法人化する際の、組織、運営、管理などについての特例措置など検討の基本的な方向を整理、公表
- 12.17 厚生省が「国家試験の業務等に関する検討会」を設置。今後の実施体制の在り方検討へ

平成 12 (2000) 年

- 1.14 文部省の医師の卒後臨床研修に関する協議会が「意見の概要」を公表。臨床研修の必修化の趣旨を生かすため、研修内容の充実や研修体制の環境整備などについて提言 (資料 6)
- 3.10 文部省が「医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議」を設置。下部機構として医学教育コア・カリキュラム、歯学教育コ

ア・カリキュラム、臨床実習前の共用試験、医学臨床実習、歯学臨床実習に関する各委員会を

4.1 「東京大学医学教育国際協力研究センター」開設

4.1 国立学校設置法の一部を改正する法律（3月）をもとに、学位授与機構は大学評価・学位授与機構に改組。第三者機関として大学などの評価事業の実施に

4.20 第94回医師国家試験の合格発表。受験者数8,934名中7,065名が合格（合格率79.1%）

4.28 文部省大学審議会が「大学入試の改善について（中間まとめ）」を公表

6.13 厚生省の「へき地保健医療対策検討会」が報告書を公表。卒前の学部教育におけるへき地での臨床実習や、卒後臨床研修におけるへき地での研修を奨励することなどを提言

6.14 医事試験制度研究会が「医師国家試験出題基準（平成13年版）」を発行。出題基準の各項目ごとの出題割合を示す「医師国家試験設計表（ブループリント）」も併せて提示

11.7 文部省が「臨床実習開始前の学生評価のための共用試験システムに関する研究班」を設置

11.22 文部省大学審議会が「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について（答申）」を公表。目指すべき改革の方向として、グローバル化時代を担う人材の質の向上に向けた教育の充実、高度で多様な教育研究の展開、情報通信技術の活用、学生や教員などの国際的流動性の向上、高等教育機関の組織運営体制の改善と財政基盤の確保を提言

11.22 文部省大学審議会が「大学入試の改善について（答申）」を公表。アドミッション・ポリシーの明示と、それにふさわしい入試方法の採用、大学入試センター試験の成績の資格試験的な取扱いの推進や年度内複数回実施などの大学入試センター試験の改善、アドミッション・オフィス入試の適正かつ円滑な推進などを提言

12.6 「医療法等の一部を改正する法律」を公布。平成16年4月1日から卒後2年以上の臨床研修必修化へ（資料7：法律案抜粋）

平成13（2001）年

3.27 文部科学省の医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議が「21世紀における医学・歯学教育の改善方法について—学部教育再構築のために—」を公表（資料8）

21世紀における医学・歯学教育の改善方法について—学部教育再構築のために—【別冊】で、医学教育モデル・コア・カリキュラム、歯学教育モデル・コア・カリキュラム、準備教育モデル・コア・カリキュラム、診療参加型臨床実習の実施のためのガイドライン、教員の教育業績評価ガイドラインを提示

3.27 文部科学省の学士を対象とする医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議が「今後の学士を対象とする医学・歯学教育の在り方について（報告）」を公表。学士編入学制度の利点を挙げつつ、その拡充やメディカル・スクール制度の導入については慎重姿勢を

4.1 「全国共同利用施設医学教育開発研究センター」開設

4.26 第95回医師国家試験の合格発表。受験者数9,266名中8,374名が合格（合格率90.4%）

5 日本医学教育学会が「卒後臨床研修カリキュラムの提案」を公表

6.1 厚生労働省が「医道審議会医師分科会医師臨床研修検討部会」を設置。臨床研修の必修化に係わる技術的な論点のみならず、21世紀の医療と医師の養成に幅広い観点からの検討を

6.11 文部科学省は「大学（国立大学）の構造改革の方針—活力に富み国際競争力のある国公私立大学づくりの一環として—」を経済財政諮問会議に提出。国立大学の再編・統合（スクラップ・アンド・ビルドで活性化）、国立大学に民間的発想の経営手法を導入（国立大学法人への早期移行）、第三者評価による競争原理（国公私立大学のトップ30を育成）を明示（資料9）

7.13 国立大学医学部付属病院長会議が「卒後臨床研修必修化に向けての検討状況」を公表

7.24 文部科学省の臨床実習開始前の学生評価のための共用試験システムに関する研究班が「臨床実習開始前の学生評価のための共用試験システムにおけるCBT試験問題作成ワークショップ」を開催。全国80大学医学部（医科大学）がCBT試験問題の作成を分担へ

9.21 日本医師会が「医療改革を実現するために—日本医師会の提言—」を公表。医学教育関連では、全人的医療をより重視する医学教育、卒後臨床研修や生涯教育の促進を提言

9.27 文部科学省の国立大学等の独立行政法人化に

- 関する調査検討会議が、新しい「国立大学法人」像について（中間報告）を公表
- 10.29 文部科学省の臨床実習開始前の学生評価のための共用試験システムに関する研究班が「共用試験システムに関する全体会議」を開催。トライアル実施に向けての準備が進捗
- 11 文部科学省が「大学（国立大学）の構造改革の方針」について、基本的な考え方、今後の進め方などを提示（資料 10）
- 12 国立大学医学部附属病院長会議が「国立大学附属病院卒後臨床研修必修化へ向けての指針」を公表。「国立大学附属病院卒後臨床研修共通カリキュラム」改訂版を示すとともに、卒後臨床研修センターによる一元的な研修体制の構築、マッチングプログラム（研修医公募選択方式）の導入、全国レベルの委員会による研修評価システムの構築を提言
- 12.19 文部科学省が「大学におけるカリキュラム等の改革状況について」をとりまとめ。平成3年の大学設置基準改正に伴うカリキュラム改革の進捗状況について報告（資料 11）
- 平成 14（2002）年
- 1 文部科学省の臨床実習開始前の学生評価のための共用試験システムに関する研究班が「第1回共用試験 OSCE トライアル」を実施（1～4月）
- 2 文部科学省の臨床実習開始前の学生評価のための共用試験システムに関する研究班が「共用試験 CBT トライアル」を実施（2～5月）
- 2.21 文部科学省中央教育審議会が「新しい時代における教養教育の在り方について（答申）」を公表。大学における教養教育については、その抜本的充実が不可避、質の高い教育を提供できない大学は将来的に淘汰と
- 3 全国医学部長病院長会議が、「卒後臨床研修の制度設計の基本骨格（提言）」を公表。研修施設のあり方、卒後臨床研修センター構想などを含む研修医の受け入れ体制、研修医の身分保障、研修全体の評価に関する全国組織などについて提言
- 3.26 文部科学省の国立大学などの独立行政法人化に関する調査検討会議が、新しい「国立大学法人」像について（最終報告）を公表。法人化後の組織業務、目標評価、人事制度、財政会計制度などの具体的内容について提言
- 4.1 文部科学省が「共用試験実施機構」を設立
- 4.1 「全国共同利用施設医学教育システム研究センター」開設
- 4.25 第96回医師国家試験の結果発表。受験者数8,719名中7,881名が合格（合格率90.4%）。一般問題を1点、臨床実地問題を3点と換算した場合、必修問題については160点以上、必修問題を除いた一般問題は130点以上、臨床実地問題は409点以上、禁忌肢問題選択数1問以下を合格基準とした